

令和 7 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

校訓「創意 敢行」のもと、次の3点を基本目標とし、時代をたくましく生き抜く人材を育てる。

- 高い知性と創造的な能力を養う。
- 自他敬愛の精神と主体的な実践力を培う。
- 豊かな情操とたくましい心身を育てる。

2 学校の特徴

本校は、昭和 61 年開校、今年で創立 40 年目の普通科単独校である。平成 28 年より 3 学級体制となり、現在、3 学年 9 クラス、356 名の生徒が学んでいる。ほとんどの生徒が高等教育機関への進学を目指し、約 5 割の生徒が国公立大学合格を果たしている。

県内で唯一「情報コース」を設置し、情報教育を核に ICT 機器を活用した授業を推進している。3 年次には「情報Ⅱ」が選択履修でき、高度な専門性やスキルを持つ情報系技術者や研究者を志す生徒が学んでいる。また、2 年次の学校設定科目「情報課題研究」では、自然科学分野・人文社会分野の研究を班ごとに行って課題発見能力・課題解決能力を磨き、成果発表を通して情報活用能力・発信力を養っている。令和 6 年度からは、DX ハイスクールに採択され、「情報の大門」として新たな段階に進んだ。

キャリア教育にも力を入れ、進路講演会、進路研修旅行、「卒業生に学ぶ」「大学生に学ぶ」「職業人に学ぶ」等の多彩なプログラムで進路意識の向上を図り、個人面談を中心としたきめ細かな進路指導を通して進路実現を支援している。

特別活動では、生徒主導による自治的・自発的な生徒会運営を目指し、生徒の主体性を生かした実践力・リーダーシップの向上を推進している。

環境教育や国際交流に重きを置き、平成 9 年から「高校生国際環境サミット」（現在の「CEI 環境国際会議」）に参加し、これまで通算 9 回参加した。平成 25 年度・28 年度には、「北東アジア地域環境体験プログラム」に参加し、国際交流に積極的に取り組んできた。令和 2 年、CEI 環境国際会議への参加や国際環境委員会の活動の成果が認められ、「地域環境保全功労者表彰（環境大臣表彰）」を受賞している。

3 学校の現状と課題

現在の本校生の意識と生活の実態を見ると、優しく素直な生徒が多く、学校生活に落ち着きがある反面、将来の目標実現に向けて立ち向かっていこうとする意欲やたくましさの乏しい。「自ら高い目標を持ち、意欲的に学習し、主体的に行動できる生徒をどのように育成するか」を学校課題とし、「大門高等学校グランドデザイン」で設定した卒業までに身につけてほしい 6 つの力を、授業や学校行事、部活動などあらゆる教育活動において育てていくことを目指す。その際、DX ハイスクール継続校として、昨年度に整備した ICT 環境を活かし、情報を活用することで国際・地域・環境に関する教育活動を展開していく。

また、小規模校であることを強みとし、少人数ならではのきめ細かい指導を活かした大門高校独自の指導スタイルの確立を目指す。

4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
1	学習活動	目標	○確かな学力を育成するため、学習習慣の確立と学習意欲の向上を目指す。 ○生徒が能動的に学習できるような学習環境の構築を図る。 ○わかり易い授業・定着度の高い指導方法などを研究する。
		計画	○新入生に対してのオリエンテーションや年度当初の授業を通して、国数英を中心とする教科の学習についての初期指導を行う。 ○生徒自身が学習目標を設定し目標の達成に向けて取り組んでいくよう、意識づけを行う。 ○<u>学習目標を達成できたまたは学習の理解を深めた生徒の実態を把握する。</u> ○<u>教科面談や担任面談を通して学習方法の指導を行い、学習意欲の向上や学習内容の定着につなげる。</u> ○アクティブラーニング型授業やICT機器を活用した授業に関する研究・実践の機会を設ける。
2	学校生活	目標	○基本的生活習慣（挨拶・時間・頭髪・服装）を確立するとともにマナーやルールを遵守する社会性を身につけさせる。 ○その時、その場で、どのような行動が適切であるか、自分で考え決めて実行する「自己指導能力」を育成する。 ○学校行事や委員会活動に積極的かつ主体的に取り組む態度や能力を養う。
		計画	○<u>基本的生活習慣を確立するために、自己指導能力や規範意識を高めるための声かけを積極的に行う。また、全教職員で指導に対する共通理解を図るとともに必要に応じて適切な個別指導を行う。</u> ○<u>学校行事や委員会活動に生徒が積極的かつ主体的に取り組めるように、生徒会を中心に生徒の意見や要望を集約し反映する。</u>
3	進路支援	目標	○自己の可能性を発見し、個性や能力に応じた進路目標を設定し、実現できるように支援する。 ○進路意識の高揚を図るため、キャリア教育を推進する。
		計画	○各学年と連携を図り、あらゆる行事や活動を進路支援に位置づける。行事や活動ごとの振り返りを通して、生徒の自己理解と進路意識の向上を図る。 ○<u>学習・生活実態調査を実施し、生徒の実態を踏まえて担任や教科担当者との個人面談により、家庭での学習習慣を定着させ、目標実現のための学力をつける。</u> ○<u>進路講演会（全学年）、進路研修旅行（2年）、キャリア教育講座、高大連携事業（情報コース）等を実施し、進路意識の高揚を図り、卒業後の進路を意識した長期的な目標を設定できるようにする。</u>

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
4	特別活動	目標	○部活動及び地域活動や校外活動に積極的かつ主体的に参加することで、社会性を身につけ、個性の伸長を図るとともに、利他の精神を育み、周囲と好ましい人間関係を構築できる態度や能力を養う。
	重点 4 ① 重点 4 ②	計画	○ <u>部活動を通して自己の成長が感じられるように、部活動に意欲的に参加させるとともに、日々の活動の取り組み方を考え工夫し、実行できるように指導する。</u> ○ <u>生徒会・委員会・HR等での地域ボランティア活動や行政主催の研修やボランティア活動への参加を積極的に呼びかけ、1人でも多くの生徒に校外活動を体験させる。</u>
5	その他	目標	○情報教育の推進を図るとともに、情報教育のあり方について継続的に見直しと改善を図る。 ○学校のICT環境を整備し、教員のICT指導力の向上を推進する。
	重点 5 ① 重点 5 ②	計画	○ <u>情報課題研究（情報コース及び文系選択）の授業において、生徒が研究の方針や手法を確認する機会を増やし、研究の信頼性を高める。</u> ○ <u>「1人1台タブレット端末」を使用できる環境を整備するとともに、講習会やマニュアルなどを充実させて、ICT機器の授業での効果的な活用を促進する。</u>

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和7年度 大門高等学校アクションプラン — 1 —		
重点項目	学習活動	
重点課題	学習習慣の定着	
現 状	・入学当初は大多数の生徒が学習に意欲的であるが、学習についていけない生徒や家庭学習時間を確保できない生徒が徐々に増加する傾向にある。各教科で高校での学習方法を最初に学ばせたりしているものの、学習意欲が持続しない生徒が少なくない。 ・課題の設定や面談を実施することで家庭学習の習慣を身に付けるようにしているが、課題を提出することだけを目的とする生徒もあり、会得した内容に興味を持って学習を深めたり自発的な学習に繋がったりといった生徒はまだまだ少ない。	
達成目標	① 学期初めに各自設定した学習目標について、学期末に達成できたと実感する1年生の割合	② 年度当初より学習の理解が深まったと実感する1・2年生の割合 (2学期末にアンケートを実施)
	平均70%以上	70%以上
方 策	・適切な(具体的で実現可能な)目標が設定できるよう留意する。 ・学習状況の振り返りを行い、学習目標の達成が難しそうな生徒に対して、授業やHRおよび個人面談等を通してきめ細かく指導する。 ・主体的に学習に取り組めるように教科間で課題の量や提出期限を調整する。	
	・日々の生活状況を振り返ることで、各自の学習時間を把握し、家庭学習に必要な時間を確保するように意識付けを行う。 ・小テストやノート点検等を通して一人ひとりの学習状況を把握し、つまづきや苦手意識の早期解消を図る。 ・生徒の学習理解が深まる話題や題材を工夫し、授業等に取り入れる。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和7年度 大門高等学校アクションプラン — 2 —		
重点項目	学校生活	
重点課題	学校生活のルール(特に貴重品の管理)を守ることと学校行事及び委員会活動の活性化	
現 状	・貴重品は、登校後、個人ロッカーに入れて管理することになっているが、ロッカーを施錠していない生徒もあり、トラブルの原因になる恐れがある。 ・基本的生活習慣が確立されている生徒は多いが、登校時間がギリギリの生徒が一定数いる。 ・真面目な生徒は多いが自ら進んで意見を述べたり行動したりする生徒が少ない。 ・委員会の活動に前年踏襲が多く、新たな取り組みが少ない。	
達成目標	① 登校後、貴重品を個人ロッカーに入れて施錠するというルールを守ることができている生徒の割合 (2学期末にアンケートを実施)	② 学校行事や委員会活動に積極的に参加していると感じている生徒の割合 (2学期末にアンケートを実施)
	80%以上	80%以上
方 策	・学校生活のルールを徹底することの大切さを折にふれて生徒に伝えとともに、生徒自身にも考えさせる。 ・適宜、個人ロッカーの鍵かけチェックを行い、集会等で、個人ロッカー使用の現状を伝える。	
	・全校生徒の意見に耳を傾け、それを反映できるような学校行事となるように生徒会活動を充実させる。 ・各種委員会の活動を活性化させ、生徒の主体的な運営や活動を通して学校生活や諸活動に対する生徒の意欲や取り組む姿勢の向上を図る。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和7年度 大門高等学校アクションプラン — 3 —		
重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の向上と進路目標の確立及び実現	
現 状	・1・2年次における進路意識には個人差があり、早期から具体的な目標を持ち、進路実現に向けて準備を進める生徒もいる一方で、目標が定まらず日々の学習に対する取り組みが不十分な生徒も見られる。 ・生徒の能力、適性、進路意識が多岐にわたり、進路目標実現のための情報収集や努力にも個人差がある。	
達成目標	① 3年次 進路志望実現達成度 国公立大学前期試験合格発表時点において、志望した進路に決定した生徒の割合	② 1・2年次 進路目標の明確化 1年次：学びたい分野を決定している生徒の割合 2年次：志望校を決定している生徒の割合 (1月に進路志望調査を実施)
	70%以上	1年次 80%以上 2年次 70%以上
方 策	・学習習慣と学力の状況を把握し、個人面談などを利用して学習意欲を促すとともに十分な情報と適切なアドバイスのもと進路先の入念な検討を行う。 ・入試に対応した問題研究や受験指導を実施し、外部模試を活用して振り返りを促し着実に実力を向上させ進路目標の実現を図る。 ・全校体制で共通理解を図りながら、受験指導を行う。	
	・進路講演会・進路研修旅行・キャリア教育講座、高大連携事業（情報コース）等を活用し進路意識の向上を図る。 ・本校卒業生や保護者の方から直接話を聞く機会を設け、大学での学びや社会人としての生き方を実感させる。 ・主体的な進路研究を図るため、計画的にキャリア教育を推進し、個性や能力に応じた進路目標を設定できるようにする。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和7年度 大門高等学校アクションプラン — 4 —		
重点項目	特別活動	
重点課題	部活動の活性化と地域活動や校外活動の推進	
現 状	・部活動に加入している生徒の割合は96.1%(昨年度97.1%)であり、昨年度より加入率がやや減少したが、継続して活動している生徒は多い。 ・部活動に真剣に取り組んでいる生徒は、学校生活全般においても充実した時間を送っており、また進路実現に向けてもひたむきに努力し、志望校に合格している。 ・地域でのボランティア活動を計画する生徒やそれに参加する生徒がいる。	
達成目標	① 部活動を通して自己の成長が感じられると思う生徒の割合 (2学期末にアンケートを実施)	② 地域活動や校外活動に参加した生徒の割合 (2学期末にアンケートを実施)
	83%以上	55%以上
方 策	・部活動紹介の形式を変更し、新入生の部活動選択を支援する。 ・部員同士の交流を図るために、合同部活動研修会を計画し実施する。 ・部活動の活性化を目指し、リーダーの育成を図る。	
	・地域の清掃活動や地域と連携した活動に参加する。 ・老人ホーム「こぶし園」を訪問し、交流を深める。 ・行政主催のボランティア養成研修に参加するよう積極的に呼びかける。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和7年度 大門高等学校アクションプラン — 5 —		
重点項目	その他（情報教育・探究活動）	
重点課題	・デジタル人材としての基礎素養（情報活用能力・課題解決力）の育成 ・教職員の、ICTやAIを使って学習指導する力の向上	
現 状	・AI・データ活用やプログラミング等の先端的な情報教育の導入が試行段階である。 ・教職員自身のICT・AI機器の活用は進んでいるが、生徒にそれらを主体的に活用する機会を与えることには課題がある。	
達成目標	① 情報Ⅱにおいて、AIやネットワーク等を統合的に活用し、地域や社会課題解決に向けた情報システムや提案を構築し、発表できる生徒の割合	② 「1人1台タブレット端末」を生徒が使用する授業を、年間で1回以上実施する教員の割合
	100%	80%以上
方 策	・行政・企業・大学等と連携したフィールドワークや外部発表の機会を設ける。 ・探究設計、AI・ネットワーク等の技術指導等支援体制を整える。	・教職員向けのICT・AI実践研修を計画的に実施するとともに、実践事例を校内で共有する。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）